陸前高田 ～ 名古屋

「交流を続けてもらい、ありがたい」と踊り曲の共同制作を喜ぶ及川セイ子さん＝岩手県陸前高田市

及川セイ子さん

東日本大震災をきっかけにつながりを強めてきた名古屋市と岩手県陸前高田市の日本舞踊関係者らが、震災発生10年に合わせて踊り曲を共同制作した。陸前高田市小友町の高田水木会の及川セイ子代表(84)は「将来につながる」と感謝し、普及への思いを強くしている。

踊り曲は日舞の名古屋西川流家元の西川千雅さん(51)が作詞と振り付けを担当。三味線アーティストたなかつとむさん(47)が作曲した。陸前高田市の関係者と昨秋から意見交換し、演歌やブルースなど多様な曲調を取り入れた曲に仕上がった。

30代から日本舞踊に取り組む及川さん。津波で踊り仲間を失い、転居して離れ離れになった人もいた。共同制作は突然の打診だったが「名古屋の人たちのおかげで形として将来に残せる。感謝しかない」と喜びをかみしめる。

名古屋市は2011～20年度に延べ250人の職員を陸前高田市に派遣し、子どもたちの交流も支えてきた。両市は14年に友好都市協定を締結した。20年度は文化、産業などの4分野で市民レベルの親交をさらに深めている。

踊り曲は今後、名古屋市内のイベントでお披露目され、陸前高田市で今夏開かれる「チャオチャオ陸前高田道中おどり」でも披露する予定だ。及川さんは「多くの人に踊ってもらえるよう、大切にしていきたい」と誓う。

宮古 ～ 愛媛

岩手県警独身寮で炊事に励む薬師神由明さん。「愛媛には本当に助けてもらった」と感謝する＝盛岡市

薬師神由明さん

岩手県宮古市で天ぷら店「宇和島」を営んでいた薬師神由明さん(69)は愛媛県鬼北町出身。北宇和高を卒業後、東京で修業し1984年に妻悦子さん(65)の古里で念願の独立開業を果たした。

2011年3月11日。昼休憩中に揺れに襲われた。店は海から数百メートル。薬師神さんは、高台に逃げて何とか無事だった。

家族ぐるみで付き合っていた商店街の仲間、なじみの客、多くの友人が亡くなった。資金を借りて内装を変えたばかりの店には船が突き刺さっていた。

11年6月、失意のまま愛媛へ。高校以来の郷里は薬師神さん夫婦を温かく迎えた。「被災者と知って、町営アパートの家賃を免除してくれた。おかげで生活を立て直すことができ、本当に助かった」と感謝する。

南海トラフ地震で津波の危険がある愛媛県。北宇和高同級生の依頼で13年春には、震災被災者として津波防災について講演した。

「お金や上着、荷物を取りに戻った人がみんな亡くなった。油断せず高い所に逃げて」。故郷への恩返しの思いも込めて懸命に伝えた言葉は今も変わらない。

盛岡市に長男が家を建て18年に岩手県に戻った。現在は同市の県警独身寮で炊事員として腕を振るう。

宮古市での天ぷら店再開には「年も年だから」と言葉を濁すが「やりたい気持ちは常にある」と第二の故郷への思いは尽きない。

宮古 ～ 京都

これまでの交流を振り返り「京都の人々の支援が、今の活動につながっている」と感謝する大棒レオ子さん＝岩手県宮古市

大棒レオ子さん

岩手県宮古市田老三王の手芸サークルゆいとり工房(大棒レオ子代表)のメンバーは、京都市の人々との出会いと支援に深く感謝している。東日本大震災から10年となる今も真心を紡ぐ交流は続き、同市での作品展示販売会に毎年出展している。

サークルは自宅が被災し、避難所で出会った主婦らを中心に結成。2011年5月、京都市の染色家斎藤洋さん(73)が代表を務める支援団体・風の布パピヨンなどから布や裁縫道具が支援物資として届いたことがきっかけで、ものづくりと交流が始まった。

注文を受けて着物生地をリメークした洋服やバッグ、帽子、ポーチ「結いっこぞうり」など多様な商品を生み出し、販売している。「被災者の手作り品」では終わらせず、独創的で高品質な「逸品」を目指す。

斎藤さんやパピヨンのメンバーからは商品開発の助言を受け、定期的な交流会や野染めイベントも開催。京都市で毎年秋に開かれる「東北の手わざ展」にも商品を出展している。

斎藤さんは「震災直後から今まで優れたものづくりを続ける田老の皆さんを尊敬している。今後も縁をつないでいきたい」と話す。

大棒代表(73)は「京都の方々の明るい励ましと支援が今の活動につながっている。コロナ禍が落ち着いたら、また笑顔で再会したい」と約束する。

踊り曲共作 普及期す

故郷の支え力に再起

真心通わせ手芸交流

東日本大震災
10年を迎えた古里へ
首都圏、西日本の県人会
各団体メッセージ

明日が来ることを当たり前ではないと知った日。
あれから10年。離れていても変わらぬ想いがあります。
これまでもこれからも、
古里岩手とともに、あなたとともに―。
首都圏や関西エリア、東海、鹿児島の県人会や
県出身者を中心としたふるさと組織など
24団体からお寄せ頂いた
メッセージをお届けします。

千厩町ふる里会 会員400名
「咲かせよう❀桜」陸前高田市に植え育てて10年
逝ってしまった人達へ　未来の子供達の為に祈り続けます。
会長　山口　紀代子

岩手県人連合会 会員30,000名
決して忘れません。
あの日から10年。
思いは、ふるさとの
皆さんとともにあります。
会長　鈴木　文彦

葛巻ふるさと会 会員255名
被災地の復興への思いは変わらず、
岩手に向かって3月11日、14時46分に黙祷を捧げ致します。
新型コロナウイルス感染の終息を祈り、
故郷に帰れる日を待ちながら予防対策につとめます。
会長　落宰　房夫

在京花巻ふるさと会 会員2,100名
10年とは言え、
それは悲しみと痛みの
一日一日の積み重ね。
今後も寄り添い、
亡くなられた方々を追悼します。
会長　瀬川　紘一

ふるさと矢巾会 会員210名
長引く新型コロナ禍のために
なかなか帰省できませんが、
思いは常につながっています。
会長　山崎　重人

北上ふるさと会 会員500名
あれから10年、黙々と耐えた
岩手の人々は誇りでした。
私たちの心はふるさとの
皆さんと共にあります。
一歩そして一歩。
会長　渡邊　嘉二郎

東京大野つばさ会 会員164名
私たちは自然を畏れると共に敬う。
同時に人々の持つ柔軟でしたたかな力を信じます。
早く里帰りしたいなあ!
会長　福島　義雄

東京宮古同郷会 会員1,300名
あの日のことは
決して忘れません
会長　白土　正治

ふる里山田同郷の会 会員350名
耐えて10年希望もって10年ご苦労様です。
私達は常に思いをふる里に向けております。
此れからも手取り合って前に進んでいきましょう。
会長　小川　俶弘

八幡平ふるさと会 会員795名
遠く離れていても、私達のふるさとは岩手です。
だからこそ、これからも皆様の福(ふっこう)・幸をお祈り致します。
会長　伊藤　彰

岩手日報社 3.11首都圏・西日本県人会メッセージ企画

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。